

畑作技術情報

発行 令和8年9月5日

第8号

たいせつ農業協同組合

営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

支所 営農センター 87-4111

秋播き小麦の適期播種について

1 ほ場準備

- ・連作をすることで、雪腐病や立枯病、なまぐさ黒穂病等の病害が増加します。長期連作は避けましょう
- ・土壌 pH を確認し、pH5.8 前後になるよう矯正しましょう。
- ・サブソイラー等による心土破碎の実施、暗きょ・明きょの点検を実施しましょう。
- ・深起しした場合は、深まきにならないよう、耕起後に作土を鎮圧しましょう。

(適正は種深度：3 cm)

【深まきの弊害】

- ① 出芽率の低下
- ② 二段根の発生
- ③ 出芽時期の遅れ



越冬前の生育遅れ



越冬前の葉数、茎数不足

2 は種時期とは種量

本年の秋小麦の種子は、千粒重が例年より重いため、は種量は例年より多くなります。

きたほなみ

	適期	遅れた場合
は種日	9/15～20	9/21～28
は種量 (kg/10a)	4～5 (100～140 粒/㎡)	6～10 (150～250 粒/㎡)
目標	越冬前茎数 1,000 本/㎡ 葉数 5.7～6.4 枚	

※1 旭川市の2016～2025年までの10カ年の平均気温、3℃以上で積算

※2 きたほなみ：千粒重 40.5 g、出芽率 90%で算出

は種時期
早い
・過繁茂による軟弱・徒長・倒伏
・縞萎縮病や眼紋病の助長
遅い
・生育量不足による冬損・株枯死
・遅れ穂の発生による登熟ムラ

は種量
多い
・過繁茂による細麦・倒伏発生
少ない
・深まきになると欠株になりやすい
・生育の不揃い

3 施肥量（基肥）

(kg/10a)

区分	窒素	リン酸	カリ	苦土
低地土	4	12	9	3
台地土	4	14	9	4



※基肥の窒素量は4kg/10aを基本とします。

※使用肥料につきましては、当農協「水稻・畑作 栽培基準」17ページをご参照ください。

4 雑草対策

イネ科雑草（スズメノカタビラ、レッドトップ）やイヌカミツレ等の難防除雑草には、は種後の土壌処理が効果的です。春期にはイネ科雑草に対する除草剤が使用できないため、は種後の土壌処理を必ず実施しましょう。

※使用農薬につきましては、当農協「水稻・畑作 栽培基準」22ページをご参照ください。

～農作業事故には十分注意しましょう～